黒姫山

2009年2月21日～22日
鈴木（L）、菊池、神戸、白土、田中、橋立（記）

2/21 未明、妙高に到着。とんでもなく雪が降っている。あしたは黒姫山に登ることが出来るだろうか？それだけが心配だ。滑れたなら、オーバーヘッドは間違いない。明日への期待とともに缶ビールを飲んで寝床に就く。

2/21（土）

朝起きた時点、まだ雪が降っていたが、天気は回復してきているようだ。黒姫スノーパークから入山する。スキー場トップへのリフトは、除雪のため稼働開始が遅れていたが9:30頃に動き始めた。リフトを下り、更に上に続く今は動いていないリフト沿いの、斜度のある旧ゲレンデを登る。旧ゲレンデを登りきったところで一息いれ、さらに稜線を目指し登る。スノーシューでは、スキーの踏み跡をついていっても、深雪に足がとられどんどん遅れてしまう。この日スノーボーダーは私一人だけのようだ。リフトを下りた時点では一番乗りだったけれど、最終的には後から登ってきた、グループ全てに抜かされてしまった。一番乗りしたい気持ちは山々だが、滑る斜面は沢山あるから、パウダーを食い尽くされる心配もないだろう。みんなの背中を遠くに見ながら、あせらず気楽に休み休み登る。斜面を登りながら北側を望めば、妙高山がくっきりと見える。斜面に生えた木の上にはふかふかの枕のように柔らかそうな雪がこんもりと積もっている。日が差してきたが、まだまだ雪は軽い。やっとの思いで稜線まで登る。風が強い。しかし、滑る斜面は風下にあたるため、風に吹かれた雪がたまっていることだろう。

稜線沿いに、黒姫山方面に向かい、南東に延びる尾根状のあたりから斜面に滑りこむ。滑り出しはやや緩いが、少し滑ると斜度も増し、適度なツリーランが楽しめる。雪質はふかふか底なしのパウダーだった。今シーズン最高の雪と言っても過言ではない。まずは直滑降で思いっきりスピードをつけ、スピードが乗ったところでターンすると、背丈以上の雪のスプレーが舞う。目の前が見えなくなるた

め、こういう時は次の次くらいの斜面を読みながらどこに板を当て込んでターンを切るかを予測しながら滑る必要がある。これは、特別なことではなく、コブ斜面やらツリーランを楽しむとき、それから普通に滑るときにも言えることだと思う。

上部は気持ちのよいディープパウダー＋ツリーランだったが、下部は緩斜面の藪の中を滑ることになる。最高のパウダーを味わうためには、これくらいの修行は苦とも思わない・・・。林道に出たら、後はスキー場に向かい歩くのみ。スキーなら履いたまま、スノーボードはスノーシューに履き替えて歩くことになる。この日は 2:30 頃にスキー場に到着。夜は、スキー場脇の林の中でテントを張り一晩過ごすことに・・・疲れていたので、「駐車場で寝たらええやん･･･」と思いながらも、総意に従い一旦車に戻り荷物をまとめてまたえっちらおっちら林に戻る。夜はそれぞれ持ち寄った食材で鍋を囲む。鍋の世話は鍋奉行に任せて、とりあえず食べて飲んで話すことに徹する。（因みに、鍋を奉行に任せて待つのは“街娘”というらしい）ただ、口をつけた箸で鍋の具材をぐちゃぐちゃやられるのは気分がよいものではない・・・。しかしまあ、うまい鍋とワインで色々なことがどうでもよくなり、気分もよくなり、あんまり話したことは覚えていないのだが、楽しい夜をすごした。

2/22（日）　晴れ

翌朝、寝床を撤営し、一旦車に戻る。それから昨日と同じルートで斜面を登り稜線まで出る。今日は北東よりの斜面を滑ることにした。ここは昨日だれも滑っていないようで、またしてもオープントラックのパウダーだ。滑りだし位置からみた斜面には、低木が雪に覆われてできた低めのマッシュが続いている。この日のように新雪であれば、マッシュに当て込んでも、乗り越しても、飛んでも何をしても楽しめる。一目みて、この斜面にほれてしまった。ややハイテンションの状態で滑りを楽しむ。自分のターンで吹き上げた雪にまみれる。ひげが雪で白く固まってしまう。とんでもなく気持ちよく楽しい。

下部は、狭い沢に沿って下り林

道に出る。ここからスキー場まではほぼフラットな緩い下りが数km続く。この林道はスノーボードで下るにはちょっとかったるい。

　この日も前日に続き良い思いをした。個人的にはこの北側の斜面の方が断然気に入った。今シーズン最高の雪の中、この斜面を滑れたのはとても幸せに思う。今シーズンは、暖冬であまりいい思いをしていなかっただけに、この斜面、この雪との出会いは忘れられない。今回黒姫山で味わった喜びの余韻は来シーズンまでじんわりと残りそうだ。

コース

2/21

スキー場トップ 9:30～黒姫山外輪山稜線 12:30～南側斜面滑降～スキー場 2:30

2/22

登りは同上記、下りは北東側からドロップ、スキー場北側林道からスキー場に戻る

以上